

平成30・31年度研究委嘱補助事業

# 学校研究中間報告

「自他を大切にし、  
よりよく生きる生徒の育成」  
～道徳の教科化に向けた指導方法の改善～



狭山市立入間野中学校

# 1 研究主題 自他を大切にし、よりよく生きる生徒の育成 ～道徳の教科化に向けた指導方法の改善～

## 2 主題設定の理由

道徳の教科化への動きは、平成25年に出された教育再生実行会議の第一次提言\*1から始まった。その内容は「いじめの問題などへの対応」として、5つの提言から構成されており、その一つ目として道徳の教科化に関する文言が次のように記されている。「心と体の調和の取れた人間の育成に社会全体で取り組む。道徳を新たな枠組みによって教科化し、人間性に深く迫る教育を行う。」

この提言より先に、平成23年大津のいじめ問題後には、小中高校におけるいじめの認知件数は、18万件\*2を超え、その後もいじめに関する重篤な事案は後を絶たない。また情報通信技術の発展から子供を取り巻く地域や家庭の教育力も大きく様変わりし、SNS利用に関わる問題も年々増加をしている。さらに、高校生の生活と意識に関する調査報告書\*3では、諸外国から比較すると、我が国の高校生の自己肯定感や社会参画への意識は低く、同時に人間関係が不十分で規範意識が育っていない報告もなされ、これらは、いじめなどの問題の深刻さをさらに助長をしている。

一方、青少年の体験活動等に関する実態調査\*4では、子供の自己肯定感や道徳心は大人の関わり方で大きく変化することも報告されている。このような、いじめ問題、情報モラル、自己肯定感や社会参画への課題とは裏腹に社会全体を見てみると、グローバル化の進展、情報通信技術や科学技術の進歩によるコミュニケーションや対人関係の変化、少子高齢化社会との到来が加速度的に進行している。そこで今後は、一人一人が、道徳的価値の自覚のもと自ら感じ、考え、他者と対話し協働しながら、よりよい方向を目指す資質・能力を備えることが重要とされ、そのために道徳教育の果たす役割は、ますます必要とされる。

\*1 「教育再生実行委員会 第一次提言」2013

\*2 「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」2013

\*3 「高校生の生活と意識に関する調査報告書」2015 国立青少年教育振興機構

\*4 「青少年の体験活動等に関する実態調査」2014

### (1) 生徒の実態

本校における「いじめに関する問題」「生徒の自己肯定感や社会参画の意識」等については、学校評価等から次のような結果がでている。

生徒質問紙 (上段は平成29年度 下段は平成28年度)	(単位は%)		そう 思う	概ね そう 思う	あまり そう思 わない	思わ ない
	A + B	A	B			
あなたは学校生活が楽しいですか。	92.1	65.2	26.9	5.2	2.7	
	92.7	56.6	36.1	6.0	1.3	
あなたは自分の学級が楽しいですか。	92.2	63.3	28.9	5.8	2.0	
	89.8	57.7	32.1	7.6	2.6	
あなたは自分なりの目標をもって学校生活を送っていますか。	84.6	45.3	39.3	12.1	3.3	
	82.7	40.4	42.3	13.8	3.5	
自分には良いところがあると思いますか。	68.0	20.8	47.2	22.8	9.2	
計	65.9	22.7	43.2	26.7	7.4	

学校評価の結果、各項目とも徐々に向上はしている。平成28年度後半から時間を守る、礼を尽くす、ルールを守るなど、大きな生徒指導上の問題が減少し学校全体は、落ち着いた環境で授業等が行われている。学校生活が楽しい、自分にはよいところがあると思うか。などの項目は、生徒会活動や各行事での生徒の取組や成就感、達成感等や様々な体験活動での自己有用感が果たしてきた表れである。また今年度になり、生徒会活動等を通じて自分たちで規範意識を向上させようという意識は高まってきた。しかし、生

徒個々の状況や人間関係を見てみると、自他の存在を認め、集団の中で、人との豊かなかかわりを充実させていくことが本校の課題ととらえる。そこで、本研究テーマとして「自他を大切にし、よりよく生きる生徒の育成」を設定した。自他を大切にすることは、人との関わりや様々な体験を通じて育まれるものである。その動機付けや振り返りの要となる場が、道徳の時間である。そして、道徳の時間を要として、各教科領域や様々な行事や体験活動の成果は、よりよく生きる生徒の原動力となると思われる。

以上のことから、道徳の教科化への趣旨や理念、教育と社会を取り巻く今日的な課題、本校生徒や地域社会の実態等を考慮し、本研究主題を設定した。

## (2) 目指す生徒像

学校教育目標「志高く 心豊かに 自らを鍛える生徒」

- 「志高く」とは、人は誰もが今ある自分よりも良くなりたいという願いをもっている。その願いは、よりよく生きていく意欲や将来の自分自身を思い描くことであり、教育はそのための営みと捉えている。そのために何事も努力し、常に学び続けていく生徒を育成していく。
- 「心豊かに」とは、自他を大切にすることを育む教育活動や望ましい人間関係づくりの推進は、自尊感情を高め、人を大切にしたい共生社会づくりの基盤となる。そのために、当たり前のことができ、社会に通じる心豊かな人を育てていくことを重要視したい。
- 「自らを鍛える」とは、これからの変化の激しい社会を生き抜いていくためには、知・徳・体のバランスのとれた心身ともに健康で逞しい生徒の育成が不可欠である。

目指す学校像「居がい やりがい 行きがいのあるいい雰囲気にあふれる学校」

- 生徒も教職員も居心地がよく、学校が好きと言える学校
- 共に生活することでやりがいがあると言える学校
- 毎日が楽しく充実して通える学校

以上のような学校教育目標と目指す生徒像、前掲した本校生徒の実態や社会一般の今日的課題を加味し、道徳教育における目指す生徒像を以下のように設定した。

目指す生徒像「自他を大切にし、互いを認め合い、人とのかかわりを大切にする生徒」

## 3 仮説

**仮説Ⅰ** 道徳の授業の中で、生徒一人一人が考えを深め、互いの考えを認め合える授業展開をすれば、道徳的価値を高め、よりよく生きる心が育つであろう。

- 【研究の視点】
- ・ 考え議論する場の設定
  - ・ 道徳的価値観を育むための体験的な学習を含む授業展開の工夫
  - ・ 考え議論を深めるための工夫（資料提示、発問、板書の工夫）

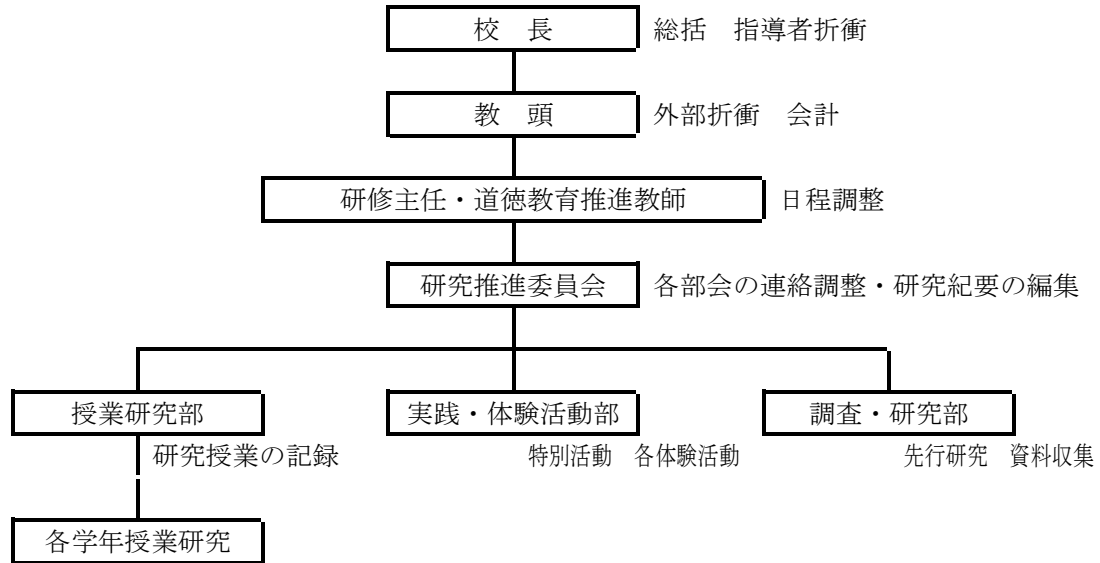
**仮説Ⅱ** 全教育活動の中で、人とのふれあい、関わり合いを大切にしたい道徳的な行為と体験活動を充実していけば、自他を大切にし、よりよく生きる心が育つだろう。

- 【研究の視点】
- ・ 生徒会活動の充実（いじめゼロ宣言の取組、感謝の集い、委員会活動、挨拶運動）
  - ・ 体験的な活動（職場体験、保育実習、平和を願う講演会）
  - ・ 行事（体育祭、校内音楽会、三年生を送る会）
  - ・ 家庭、地域との関わり（いるま路祭、資源回収、PTA 除草作業等）

言うまでもなく道徳は、道徳の授業を要として全教育活動を通して行われるものである。今回の改訂では「主体的・対話的で深い学び」の実践が各教科領域すべてにおいて求められている。道徳においても、従来の読み物の人物の心情を理解させるだけの型にはまりがちな授業や価値観の教え込みの反省から、考え、議論する道徳への一層の転換が求められている。そのためには、道徳的な行為と体験的な学習を授業の中に取り入れるとともに、問題解決的な学習や道徳的な価値観の理解を深めることで、研究のねらいに近づけることが出来ると考える。また全教育活動への関与として、特別活動との関わりや家庭・地域との関わりや連携もよりよく生きる生徒の心の育成に大きく関わることを考える。

4 仮説に対する手立て（研究方針）

(1) 研究の組織



(2) 研究の計画

年度	月	授業研究部会（授業研究） 各学年授業研究	実践・体験活動部会	調査・研究部会	
平成30年度	5	研究主題の設定 研究の組織・計画作成 研究の概要	体験活動の実践	先行研究 資料収集	
	6	先行研究 教科化に向けての研修①			
	7				
	8	授業研究指導案検討		カリキュラム の作成①	
	9	授業研究実施①非公開			
	10				
	11				
	12				
	1	研究授業実施（市教研 公開）			
	2	研究のまとめ（1年次）		体験活動のまとめ	
3					
平成31年度	4	研究の進捗状況確認と組織の見直し	体験活動の実践	カリキュラム の作成②	
	5	特別の教科 道徳 新カリキュラム作成			
	6				
	7				
	8	授業研究指導案検討			
	9				
	10	授業研究先行授業 非公開			
	11				
	12			研究のまとめ	研究のまとめ
	1	研究発表 公開 研究のまとめ（成果と課題）			

5 主な実践

(1) 道徳講演会 講師：狭山市立柏原中学校 井堀 広幸 校長

①道徳の時間のねらい

道徳の授業を通して、生徒が、どんな道徳性（道徳的心情、道徳的判断力、道徳的態度・実践意欲）を養い、どんな道徳的価値に気付けばいいのか。

②資料の選定～資料の種類（読み物資料の場合）

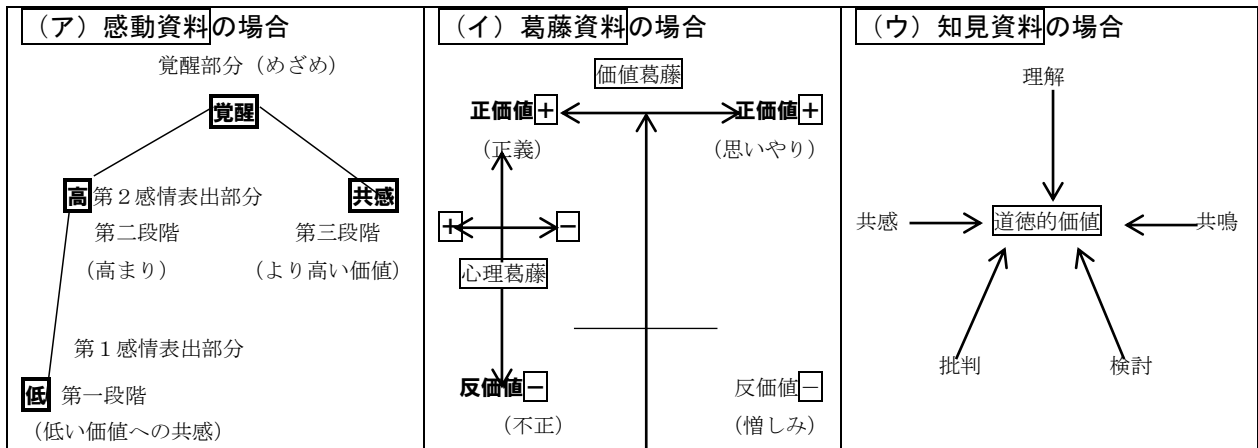
- (ア) 感動資料：好き、嫌いなどという単に行動の正否の伴う感情を乗り越え、常によりよい生き方を目指した、豊かで柔軟な感性を育てる道徳的心情を高める資料。
- (イ) 葛藤資料：さまざまな生活場面で行動する基準に、どのような価値基準を持ったらよいか、また、よりよい判断はどうあったらよいかを考え、行動するための道徳的心情や判断力を養う資料。
- (ウ) 知見資料：主に論説文、説明文、随筆、伝記などを用いて、望ましい考え方や道徳的实践意欲・態度及び行動の仕方を知らせることを目指す資料。

③資料の吟味・分析と授業構想

ア 資料分析

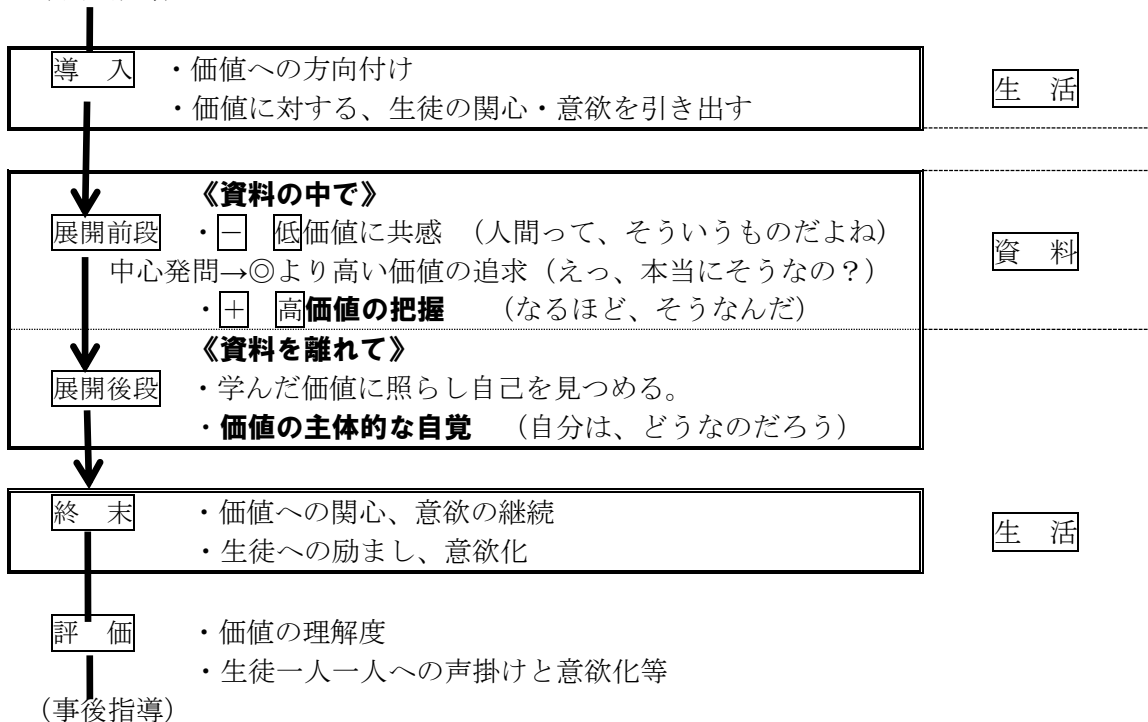
選定した資料が道徳の時間のねらいとする価値とどのように関わっているのかを分析したもの

イ 授業構想



④基本的な指導過程と発問

(事前指導)



⑤ねらいに基づく授業のための三種の神器（日常の道德の時間の指導）

- ①発問：期待する生徒の反応を確実に得るために。授業を活性化するために。
- ②板書例：授業の方向性と学習内容が、生徒に一目でわかるように。
- ③価値構成：生徒の意見を教師が採り上げ、ねらいに迫れるために、教師がねらいとする道徳的価値について十分に理解していることが大切。

(2) 研究授業Ⅰ

主題名	命のつながり	内容項目 [D 生命の尊さ]
ねらい	物語を通して生命のかけがえのなさを理解し、この世に誕生したことを喜び、自他の生命を尊重しようとする態度を育てる。	
教材名	「命のタスキ」（出典 彩の国の道徳「自分を見つめて」 埼玉県教育委員会） 「自分の番 いのちのバトン」（出典 文化出版 相田みつを）	
指導者	狭山市立柏原中学校 井堀 広幸 校長	
授業者	河村 拓哉 教諭	

①意見の全体化

それぞれの生徒が感じたことを隣やグループの人と話し合うだけでなく、全体で共有させてもよかったのではないかとのご指摘を頂いた。授業が終わった後の生徒に「他の人の意見に教えられたな」と実感させるくらいがちょうどよい。生徒は教員が思っている以上に、他の生徒がどう考えているかを知りたがっている。意見を受けた時、全体に「〇〇さんの意見に対してどう思う」と発問することで、自分と他人の意見の違いやその違いに対してどう感じているかを知ることができる。展開後段では様々な意見が出やすい部分であったため、班単位ではなく個人に発言させると、全体のより深い学びにつながった。

②発問の工夫

生徒からの考えや意見を広げ、深める「発問力」を磨くべきである。「どうして〇〇な気持ちだったのだろう」と考えを少し掘り下げたり、「具体的に言うとうなるか」を聞き抽象的な考えの具体化を図ることができる。考えを言わせるだけでなく「〇〇君と同じ意見の人」と一言発問することで安心感を与えることもできる。また、隣の人と話し合わせる前に全体で数人から意見を聞くことで、より発言しやすい雰囲気を作れたと思われる。発問の仕方、タイミングで生徒からより多くの考えを引き出すことができることを学んだ。

(3) 研究授業Ⅱ

主題名	きまりやルールを守る	内容項目 [C 遵法精神]
ねらい	幼い姉弟への思いやりで葛藤する元さんや佐々木さんの気持ちを考えることを通して、きまりがあることの意味を理解するとともに、きまりを遵守しようとする道徳的心情を高める。	
教材名	「二通の手紙」（出典：『心つないで』2年）	
指導者	狭山市教育委員会教育指導課 吉田 春昭 指導主事	
授業者	星 妙織 教諭	

①授業者反省

- ・ 思った以上に人情に流れる生徒が多かったため、授業の途中で急きょ指導計画を変更し、議論が成り立つように方向修正した。
- ・ 最終的に、「入園を許可しない」と回答した生徒は42%であったが、小グループの中で自分の意見は言えても、全体の中では、人情のないように思われてしまうからか、遠慮しがちに感じた。「入園を許可しない」と回答した生徒たちの声を拾ってあげられなかったことは反省点。生徒からの感想等を学級通信にまとめ、担任の考えを入れながら再度、まとめとして紹介するようにしたい。
- ・ 資料が長く、時間的に最後のまとめが窮屈になってしまった。この指導案を使って来週研究授業をする先生には、2点の変更提案をしたい。①資料の1部は朝読書のときに読ませる②道徳の授業では内容確認をした後、資料の続きを読むことから始め、議論は最後まで読んでからにすることで、まとめの時間を捻出する。

②指導講評①

- ・ 引き込まれるような範読だった。状況がよく想像できる。
- ・ 生徒と担任の信頼関係の中で授業が成立している。数学や英語では発言ができなくても、道徳の授業では安心して発言ができるような環境が理想である。
- ・ 答えを引き出すための引き出しの多さを感じた。
- ・ 50分という枠の中で、生徒の現状を見ながらギアを変えて指導している。
- ・ 人情に流される生徒が思いの他多かったが、最近の子供の傾向とも言えるのではなかろうか。例えば、時間通りに電車は出発して待ってくれない、などルールの大切さを現実の生活で経験していることは多々あるのに、それを自分の考えを深める材料に加えることが苦手である。
- ・ 最後の方に子供たちから出てきている「心配」「思いやり」「ルールを守った方が…」等の言葉を活かす方法を考えてみる。→教材を事前に読ませるなどして時間的な割り付けを工夫する。
- ・ 先生の言いたいことを生徒が代弁してくれるような授業を目指す。

③指導講評②

- ・ 足並みをそろった評価のために、生徒の書いた資料のストックについては場所を確保が必要か…。
- ・ 道徳は担任のみならず、みんなでやっという意識の変革が必要か…  
(丸1時間では負担であっても、冒頭の15分で、というような柔軟な考え方はどうか。)

(4) 研究授業Ⅲ

主題名	きまりやルールを守る	内容項目[C 遵法精神]
ねらい	幼い姉弟への思いやりで葛藤する元さんや佐々木さんの気持ちを考えるを通して、きまりがあることの意味を理解するとともに、きまりを遵守しようとする道徳的心情を高める。	
教材名	「二通の手紙」(出典:『心つないで』2年)	
指導者	狭山市教育委員会教育指導課 長尾 光仁	指導主事
授業者	田辺 愛	教諭

①成果と反省

ア 板書計画の見直しが必要→小学校での授業を参考に場面絵の充実や視覚的要素でのあらすじの把握を目指す  
 イ 登場人物についてもっと深める議論を入れると良かった。そのためには各班に司会をたて、話し合うためのキーワードや流れの再確認をする必要がある。(話し合いの言葉や方法については小学校で既習) 小学校での学びとの系統性をふまえ、中学校における「話し合い」の形を作っていく必要がある。



ウ 「考えの見える化」を実現していた。生徒もそのことを理解し、前向きに自分の考えを記入していたので付箋の活用は非常に効果的である。

しかし、その分実際に口で話す時間やタイミングが少なくなり、「議論する道徳」という点では課題が残った。

②今後への提案

- ア 場面絵やPowerPoint を使用し、短時間であらすじの把握をするためのさらなる工夫があるとよい
- イ 対話を増やす授業展開方法の提案と実施
- ウ 特になし

(5) 道徳教育だより「心のオアシス」の発行

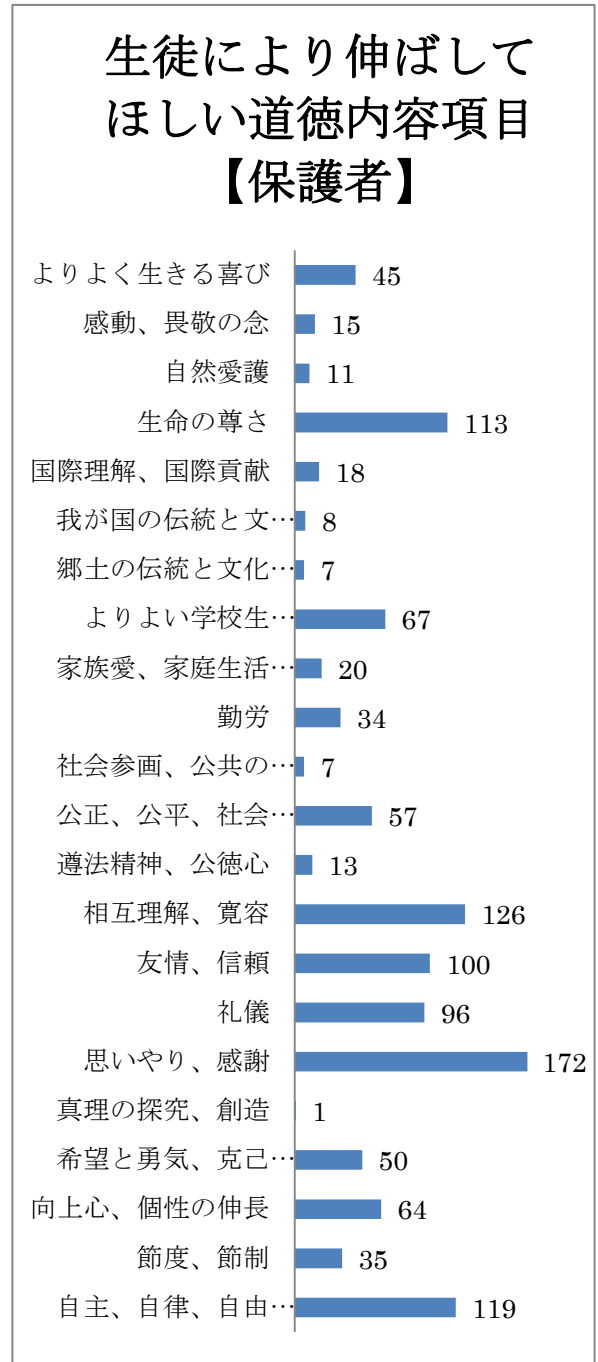
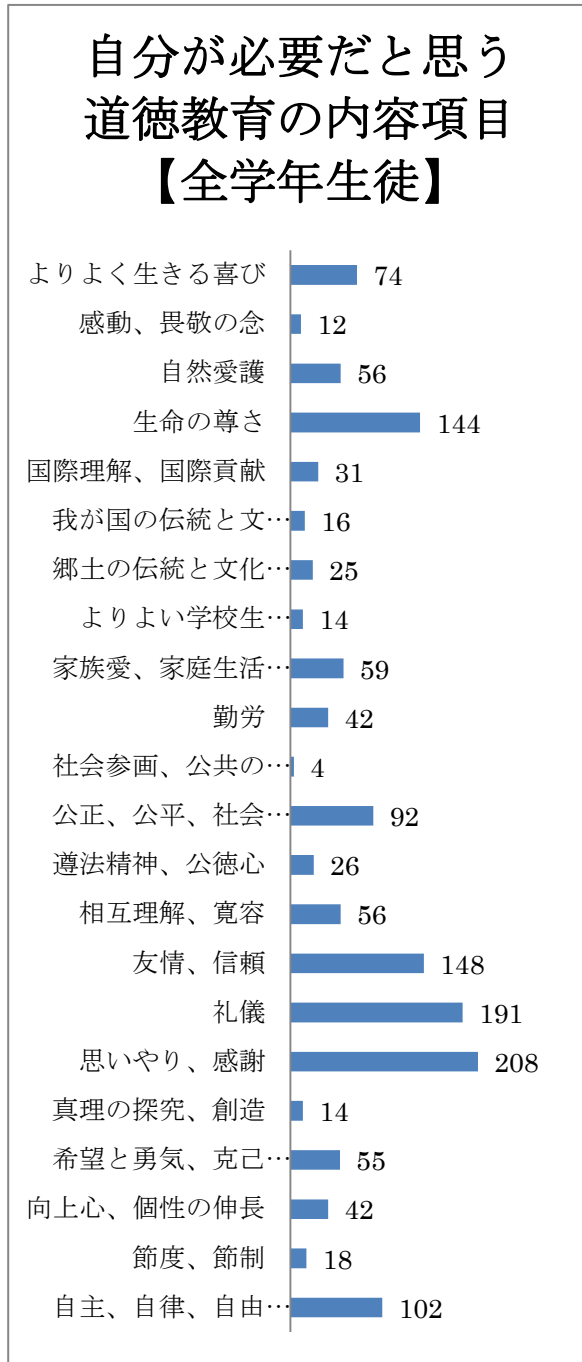
今年度は4回発行することができた。去年は、「学校だより」で道徳の取組を紹介してきましたが、平成31年度、中学校では「特別の教科道徳」の授業が実施されることとなり、道徳教育について家庭や地域社会との連携も大切となるため、道徳教育だより「心のオアシス」の発行により、さらに内容を拡大して道徳の実践を紹介しました。





(6) 道徳に関するアンケート

平成31年度の学習指導要領の改訂による特別の教科 道徳に向けて、全校生徒を対象に「自分に必要だと思う道徳教育の内容項目」を3つ選ぶアンケートの実施と同時に、1～2年保護者を対象に「本校生徒により伸ばしてほしい道徳教育の内容項目」を5つ選ぶアンケートの実施。



6 成果と課題

(1) 成果

- ・ 道徳講演会を実施したことで、読み物資料（感動資料、葛藤資料、知見資料）によつての授業構想を考察するようになった。また、発問においては主発問と補助発問、中心発問と基本的な一貫性のある発問構成の工夫をするようになった。
- ・ 研究授業を行う中で、付箋を使った技法など新たな手法や方法にチャレンジする先生が増えた。

(2) 課題

- ・ 道徳に関するアンケートの実施においては、教職員アンケートを実施することで、先生と生徒との受け止め方の相違を知ることでもできたのではないか。
- ・ 平成31年度の学習指導要領改訂「特別の教科道徳」に向けて、年間指導計画・全体計画の見直し・点検が急務であること。